あなたも東京民研へ

2024年度研究員を募集

東京民研（東京の民主教育を進める教育研究会議）は、東京都教職員組合（都教組）が、「東京の子どもたちをすこやかにかしこく育てるために、教職員、研究者、父母の協力のもとに、憲法と1947教育基本法の条文に示された理念に基づき民主的な教育実践の創造と普及及び理論の研究をおこなう」ことを目的に設立したものです。

東京民研では、日常的な部会活動とともに、共同研究集会、総括集会などを行っています。

これから、2024年度研究員を募集します。希望される方は都教組の各支部・地区協へ連絡してください。

国語

金田一清子

新教科書の作品検討をすすめる中で、説明文では情報読みの傾向が強まり、文学の読みでは「読みの方法」を教え込むやり方が問題となりました。「目の前の子どもから出発する授業」を合い言葉に、もっと子どもたちと、自由に楽しく力のつく国語の授業を作っていきましょう。

外国語

吉岡　潤子

外国語部会では東京都の実施する東京方式少人数習熟度別授業や都立入試のスピーキングテストや全国的に現場が困っている3観点評価などの課題に向き合いながらも、生徒たちにとってより楽しく、深い学びのある授業をめざし皆で知恵を出し合っています。

算数・数学

北見　眞弥

今年度は新教科書の比較検討を通して私たち自身が単元の理解を深め、「子どもが生き生きと学習できる」「本質が分かる」授業について意見交流してきました。子供たちが学ぶ喜びを感じられて、私たち自身も楽しいと感じられる教材研究を一緒にしていきませんか?

社会科

坂爪　邦雄

新教科書の分析をしながら「たのしくわかる」「子どもが主人公になる」授業をテーマにしておこなっています。観点別評価をどう考えるか、タブレットをどう使うなど、東京民研だからこそできる子どもの視点にたった実践交流ができます。ＺＯＯＭ併用でおこなっています。

理科

高鷹美恵子

今年度は小学校教科書の採択の年だったので、5社の理科教科書を、子どもたちにわかりやすく、自然科学の法則に沿っているかを視点にして検討しました。今来年は中学校教科書の採択の年です。今年度と同じように検討を進めたいと思います。一緒に研究しましょう。

美術

竹内　美弥

仮想空間での不登校対策まで強要される学校の中で、自然に学び、手で物と触れ合い、自分の大切な作品に言葉を添えて仲間に受け止めてもらえる図工・美術の授業はかけがえのないものです。「難しい所もあったけど楽しかった！」そんな子どもの声と作品を交流しましょう。

音楽

森谷　直美

学校に豊かな文化を～音楽を通して～の研究テーマの下、実践を聴き合ったり、公開授業を行って学んでいます。東京民研や教研集会で確かめられてきた教材で子どもたちに働きかけ、ともに育つ教師でありたいと願っています。音楽以外の分野からも講師を招き、学んでいます。

家庭科

谷内　香子

自分たちの生活をみつめることから学習がスタートします。問題があればどうしたらよいか考え、社会と繋げ主権者としての生活者の視点やジェンダー平等の視点を大切にしながら、いのちとくらしを守り発展させる学習をめざします。皆さんと交流していきましょう。

保健体育

岩崎　明美

水泳で、みんながわかって教え合いながら泳げるようになる教え方を研究しています。今年度はできませんでしたが、できれば水泳教室を開催して学習したいと思っています。

一緒に学習してくださる方、保健体育部会の研究員になってください。

生活科

高鷹　敦
中河原良子

何でも「やってみたい！」と興味を持って自分で試したくなる低学年の子どもたち。でも教科書の体験は本質的な学びにつながる内容でしょうか？生活の中の直接体験を発展できているでしょうか？来年度も「低学年で何をこそ？どう？」をテーマとして学習交流します。

学校保健

中川　真紀

保健室には毎日多くの子どもが訪れます。心や体の不調から居場所を求めて来る保健室で、私たち養護教諭は、子どもの言葉に耳を傾け、目線に立ち、ありのままを受け入れることから始めます。

今、多様性が求められる学校保健。大いに交流し、議論しましょう。

進路指導

岩井　紀子

都立入試の問題では「スピーキングテスト」「ネットでの受験申込み」が加わりましたが、大事な問題として「子どもの姿が変わった・子どもの成長発達にとてつもない変容」が起きているのではないだろうか。生きていく道すじの進路と、思春期・青年期を考える部会です。

障害児教育

山下　洋児

どのように子ども理解を深め、どのような授業をつくっていけばいいのか、その実践を保障する制度はどうあるべきか。特別支援学級・特別支援教室の具体的な実践と情勢を基に、都教組障害児学級部と連携しながら、研究を進めます。どうぞあなたも障害児教育部会へ。

文化活動

山川　政志

コロナ禍で、子どもたちのまわりからヒューマンなふれあいやコミュニケーションの機会が奪われています。

子どもたちの成長と発達が心配される今、学校や地域が育てる豊かな文化活動の創造について一緒に考え、研究や実践に取り組みませんか。

生活指導

相馬　幸夫

子どもは、集団の中で、成長・発達していきます。学校は、本来、子どもが集団の中でかかわりを深め、お互いを理解し合っていく場所のはずです。しかし今、学校では、仲間とかかわる意義が軽視されていると感じます。集団の中で育つ子どものことを一緒に考えてみませんか。

職場の民主化

西田　昭司

人格の完成をめざす教育は、教職員が自由に意見が言えて、民主的に物事が決められる職場でなければ実現できません。そんな職場をどうつくっていくのか、どんな努力をしたらよいのか、そんなことを研究しています。

現場の方の参加を期待しています。

教育条件整備

亀井　雄一

教育条件整備とは、学校のお金の使い方を考えることだと思います。雨漏りの校舎があるのに、児童・生徒全員にタブレット端末を配布する方が優先なのはなぜ。事務・栄養職員が全校配置でないのはなぜ。35人学級がすぐに実現しないのはなぜ。皆さんで考えましょう。

学校給食

松本　恭子

〝教育としての学校給食〟を学校の中で位置付け、経済界の語る「人材育成」ではない、子どもたちの豊かな人格形成をめざして研究を重ねています。保育園から中学校までの栄養士や、小学校教諭、学校教職員ＯＢとともに毎月1回、土曜日午後の定例会を開いています。

地域・学校づくり

平賀　佑宏

コロナ禍のため、教育懇談会等の子どもを支える地域や学校の取り組み等もオンラインは使えるもののまだまだ厳しい状況にあります。地域ごとに微妙に違う厳しさをどう知恵を出し合って乗り越えようとしているのかを学習・交流しませんか。

平和教育

糀谷　陽子

「戦争を始めるのも人間ですが、戦争をやめるのも、平和な世界をつくる努力をするのも人間です」。イスラエル大使館への抗議行動に寄せた沖縄の高校生の言葉です。子どもたちとの日常的なかかわりが、その〝人間〟の力をつくると思います。ともに学び合いましょう。

道徳（心の教育）

矢澤　正道

道徳教科書を乗り越えるためにに、どうしても自主編成・自主教材が必要です。まず、クラスの実態、課題にマッチしたもので、「人権」「平和」「民主主義」など普遍的な価値観、共通認識が内容になっていることが重要です。それらの実践交流を通して学び合いましょう。

ジェンダーと性の教育

天沼　文

小学校教科書採択の年、ジェンダー視点からどのように変わったかを検討しました。また、ジェンダーをめぐる情勢についての学習を大事にしながら、どうすればジェンダー平等意識を持った社会人を育てる教育、人権教育、多様な性を認める教育を実践できるかを模索しています。

紹介文には掲載されていませんが、**技術科部会、幼年教育部会、人権と教育部会、教育評価部会**もあります。希望される方はご連絡ください

2023 年度

東京民研総括集会

コロナ禍、ウクライナ侵攻、ガザでのジェノサイドを受け、社会全体に不安があふれています。2022 年度不登校の小中学生が、29 万9000 人と報道されました。深刻です。そんな中、東京民研は、子どもの発達について注目し、追究してきました。研究・実践をすすめるためぜひご参加ください。

日時　2024 年 3 月 24 日（日）10：00 ～ 16：30（予定）
会場　エデュカス東京 5 階会議室